

令和4年度大阪府中学生チャレンジテスト(3年生)

結果について<東大阪市>

○調査目的 (大阪府教育委員会作成の実施要領より)

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

○調査概要

実施日 令和4年9月6日(火)
 実施対象学年 中学校3年生
 実施教科 国語・数学・英語・理科・社会
 調査実施生徒数 国語:3225人 社会:3233人 数学:3229人 理科:3243人 英語:3239人

○調査結果について

本調査で得られる結果は、学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

○今年度の結果概要

<教科> 平均得点の対大阪府比は、すべての教科で昨年度から大幅な改善はみられなかった。特に、様々な情報(図や表等)から必要な情報を読み取る力、得た情報を多面的・多角的に考察する力、考え等をまとめて表現する力に課題がみられた。

<アンケート> 子どもたちが主体的に授業に取り組むことができる授業改善が進んだこと、子どもたちの主体的に学ぶ姿勢が身につくことが、結果より伺えた。一方、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長く、ネット依存による生活習慣の乱れや集中力の低下が懸念される結果となった。

<今後> 引き続き、ICT機器も効果的に活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの基盤となる言語能力や情報活用能力等の向上をめざしていく。

<今年度の平均得点>

	国語	社会	数学	理科C	英語
東大阪市	50.7	50.3	51.2	52.7	48.8
大阪府	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2

○令和4年度 大阪府 中学生チャレンジテスト —調査問題・正答(例)—

https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge_04_mondai.html



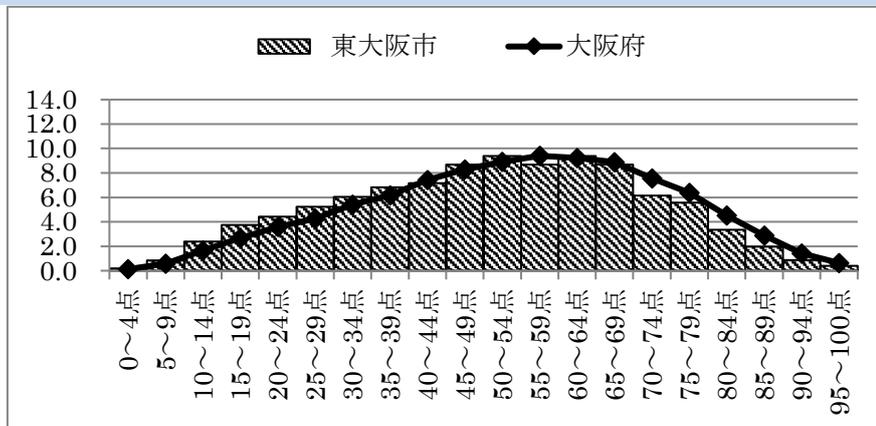
第3学年 国語

■平均得点

50.7 点 (東大阪市)

53.8 点 (大阪府)

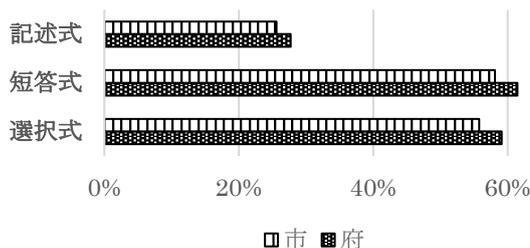
■得点別分布の割合



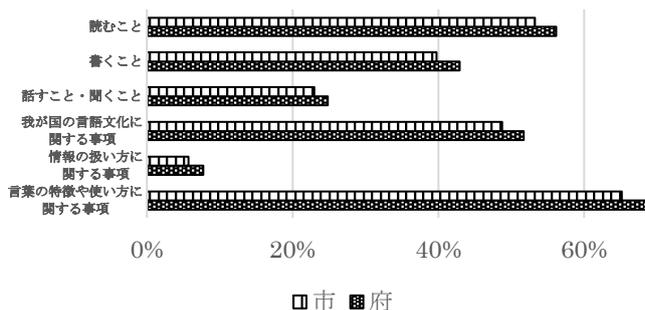
- ・大阪府の得点分布と比較的類似している。
- ・60～64 点をピークとする山型となっている。
- ・大阪府の分布に比べ、70 点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

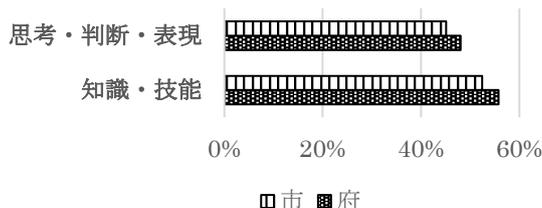
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



- ・評価の観点別得点率では、「知識・理解」の得点率が「思考・判断・表現」と比べて高く、50%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

- 設問3(6)は、読み手の立場に立って表現の効果を考え文章を整えて書く設問で、正答率が低い(【市】31.1%【府】36.2%)。意見文、批評文、鑑賞文等の言語活動を設定し、伝える事柄や伝え方を工夫して文章を書くことを通して、言葉の意味、働き、使い方を考えながら、相手に応じた適切な文章を書く力の育成を図る必要がある。
- 設問4(3)は、与えられた情報を根拠に、自分の考えを適切に話す設問で、全設問中、正答率が最も低い(【市】5.7%【府】7.7%)。スピーチ、ディスカッション、インタビュー等の言語活動を設定し、情報と情報との関係を理解したり、情報を整理して話したりすることを通して、様々な媒体の中から必要な情報を取り出す力、情報どうしの関係を分かりやすく整理する力、発信したい情報を話す力の育成を図る必要がある。

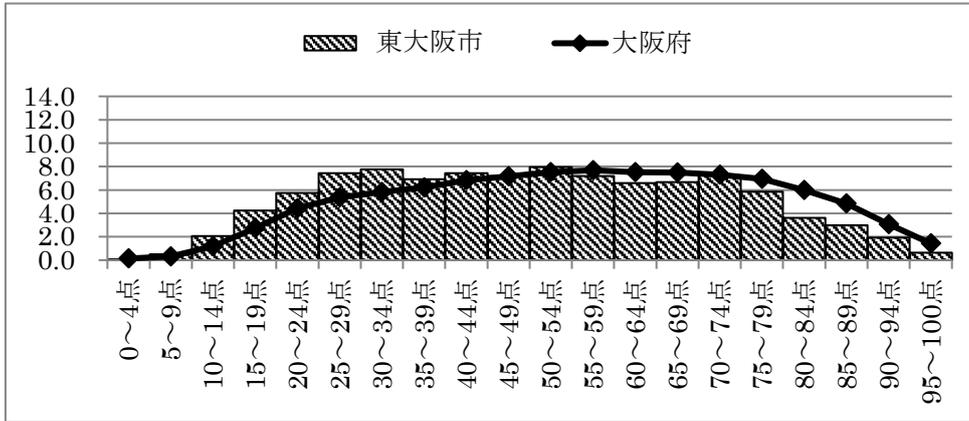
第3学年 社会

■平均得点

50.3 点 (東大阪市)

55.4 点 (大阪府)

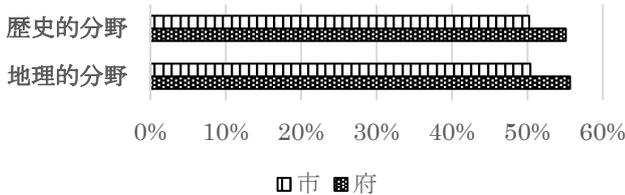
■得点別分布の割合



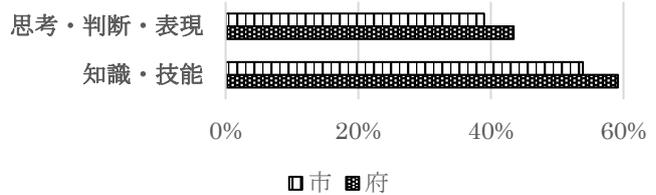
- ・ 54 点以下の生徒の割合が、大阪府の割合と比較して多い。
- ・ 大阪府の分布と比較し、75 点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

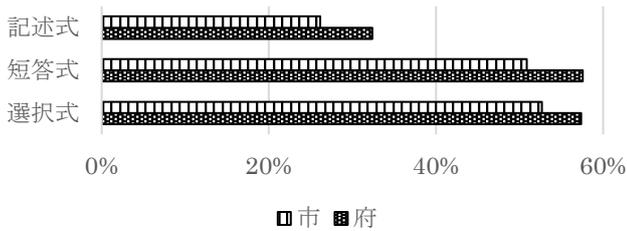
学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



問題形式別得点率



- ・ 学習指導要領の領域等別得点率では、「歴史的分野」「地理的分野」とともに、約 50% である。
- ・ 評価の観点別得点率では、「知識・理解」の得点率が「思考・判断・表現」と比べて高く、50% を超えている。

■特徴的な傾向と対策

- 設問 2 (3) ②は、第二次世界大戦中にユダヤ系避難民に対して査証を発給した杉原千畝を選ぶ設問であるが、全設問中、大阪府との正答率の差が最も大きく (【市】 34.9% 【府】 57.5%)、基礎的な知識の定着に課題がある。物事を「思考・判断・表現」するためには、その基盤となる「知識」が不可欠である。AI ドリル等を効果的に活用しながら、知識の定着を図る必要がある。
- 記述式問題 (全 2 問) の無解答率が高く、自分の考えを書くことに課題がある [3 (1) ② 【市】 39.4% 【府】 33.5%、4 (2) 【市】 39.1% 【府】 33.0%]。社会的な思考・判断・表現の理解を深めるため、社会的な諸事情を題材に、課題を追究したり解決したりする活動が必要になる。様々な情報 (図や表等) から必要な情報を読み取る活動、得た情報を多面的・多角的に考察する活動、考察結果を発表する場面や条件に従って書く活動等を多く行うことが必要である。

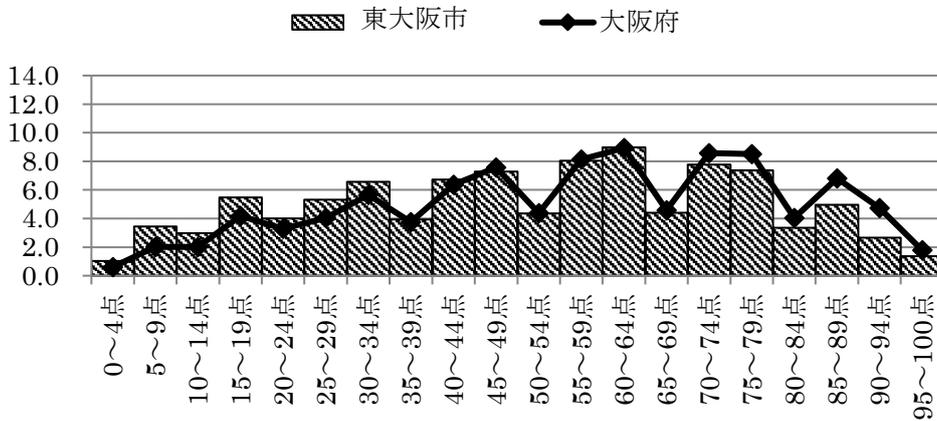
第3学年 数学

■平均得点

51.2 点 (東大阪市)

56.0 点 (大阪府)

■得点別分布の割合

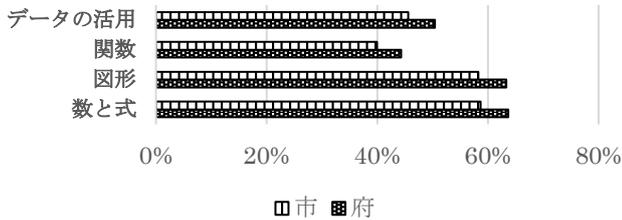


・グラフの分布にまとまりがなく、いくつもの山ができています。

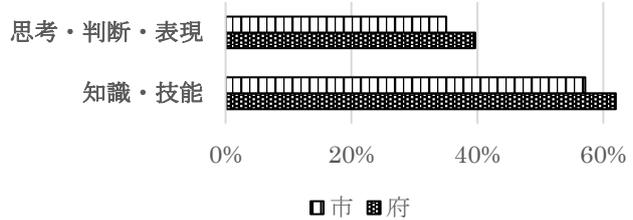
・大阪府の分布と比較して70点以上の分布が少なく34点以下の分布が多い。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

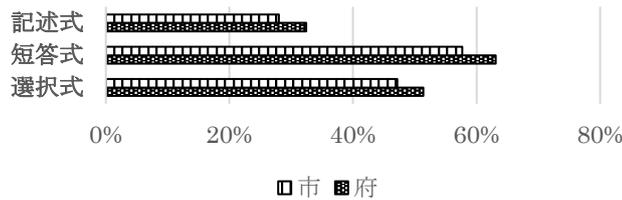
学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



問題形式別得点率



・学習指導要領の領域等別得点率では、「図形」「数と式」の領域の得点率が高く、約60%である。

・評価の観点別得点率では、「知識・理解」の得点率が「思考・判断・表現」と比べて高く、50%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

●設問1(4)は「 $-6\sqrt{5} + \sqrt{45}$ を計算する」設問で、全設問中、大阪府との正答率の差が最も大きい(【市】73.2%【府】81.9%)。根号を含む式の四則計算を問う設問であり、45を素因数分解しそれぞれの項の√の中の数を簡単にして計算する必要がある。公式を用いての展開及び因数分解の方法について理解するために、AIドリル等を活用しながら確実な定着が求められる。

●設問4(4)は、直線1とx軸、直線mそれぞれとの交点及びその2点を対称移動した点の4点を頂点とする四角形の面積を求める設問で、全設問中、無解答率が最も高い(【市】54.3%【府】46.9%)。二元一次方程式を、一次関数を表す式として捉え、交点の座標や対称移動した点からなる四角形の面積を求める力が求められる。一次関数を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する活動が必要である。

第3学年 理科C

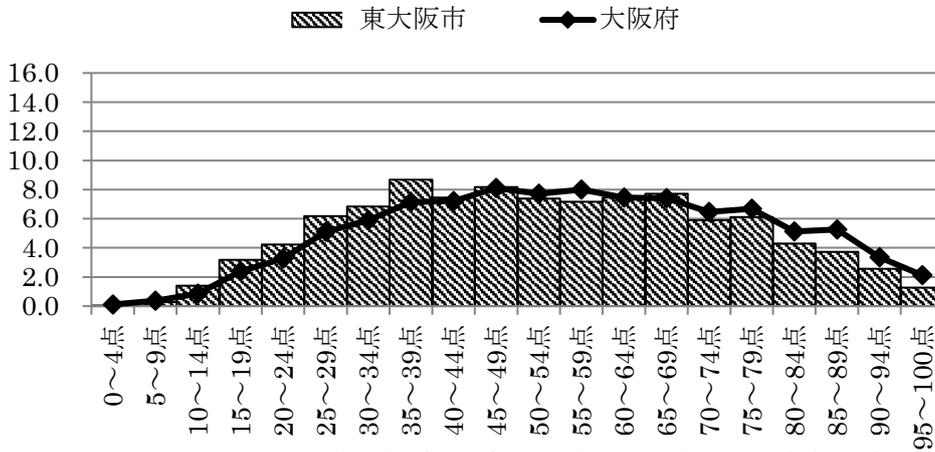
※理科A・理科Bを選択した学校が極端に少ないため、理科Cのみ記載

■平均得点

52.7点（東大阪市）

55.9点（大阪府）

■得点別分布の割合



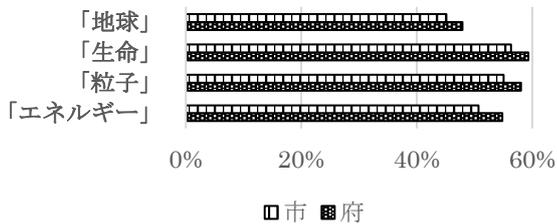
※最も受験者数の多かった理科Cの得点別分布の割合を掲載

・大阪府の得点分布と類似している。

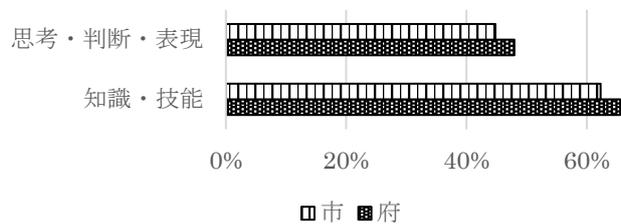
・大阪府の分布と比較して、70点以上の分布が少なく、10点～39点の分布が多くなっている。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

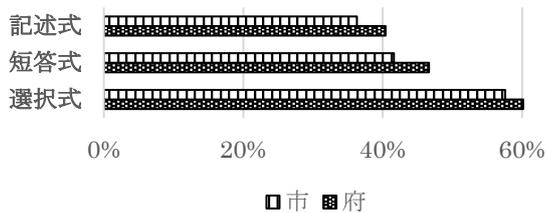
学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



問題形式別得点率



・学習指導要領の領域等別得点率では、「生命」「粒子」「エネルギー」が50%を超えている。

・評価の観点別得点率では、「知識・理解」の得点率が「思考・判断・表現」と比べて高く、60%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

●設問2(4)③は、「1.60gの酸化銅に0.12gより多い量の炭素を加えた場合、加えた炭素の質量と『残った固体』の質量との関係について『炭素の粉末の質量』ということばを用いて25字以内で書く」設問で、全設問中、無解答率が最も高い（【市】46.7%【府】42.6%）。2つの物質の化学変化において、一方の物質が多い場合の物質の質量の関係について、表現することができる力の育成を図る必要がある。

●設問3(1)①は、「マグマが冷えて固まった岩石の名前を書く」設問で、全設問中、大阪府との正答率の差が最も大きい（【市】32.6%【府】40.3%）。火成岩について理解しているか問われている設問であり、基本的な知識・技能を確実に定着できるような支援が必要である。

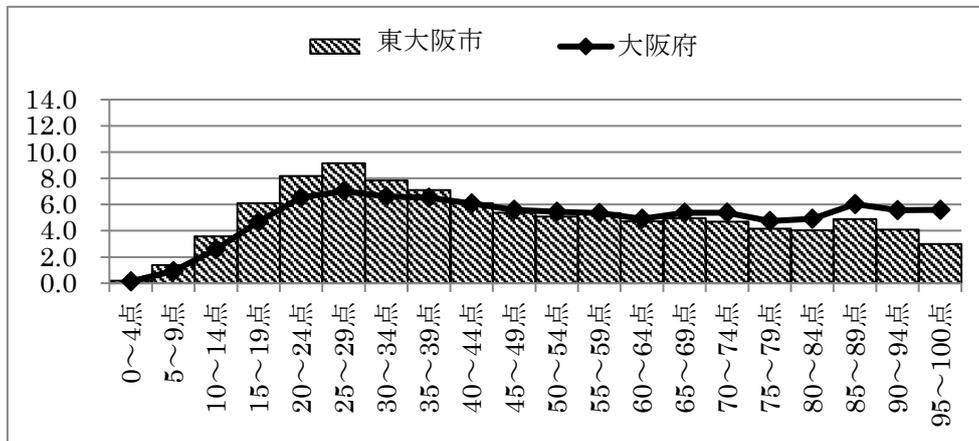
第3学年 英語

■平均得点

48.8点 (東大阪市)

54.2点 (大阪府)

■得点別分布の割合

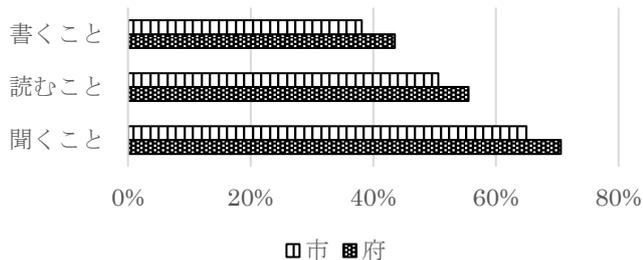


・34点以下の生徒の割合が、大阪府の割合と比較して多い。

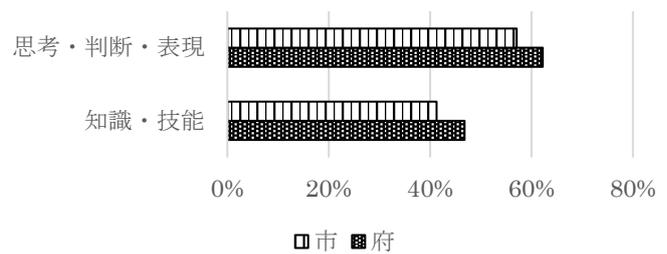
・大阪府の分布に比べ、70点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

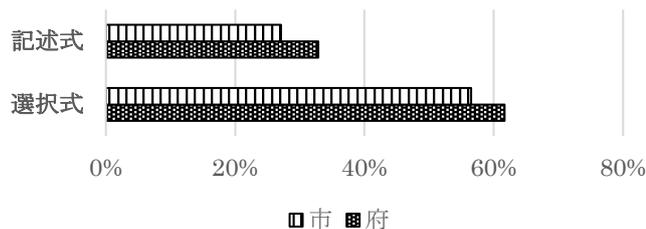
学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



問題形式別得点率



・学習指導要領の領域別得点率では、「聞くこと」の領域が高く、60%を超えている。

・評価の観点別得点率では、「思考・判断・表現」の得点率が「知識・技能」と比べて高く、50%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

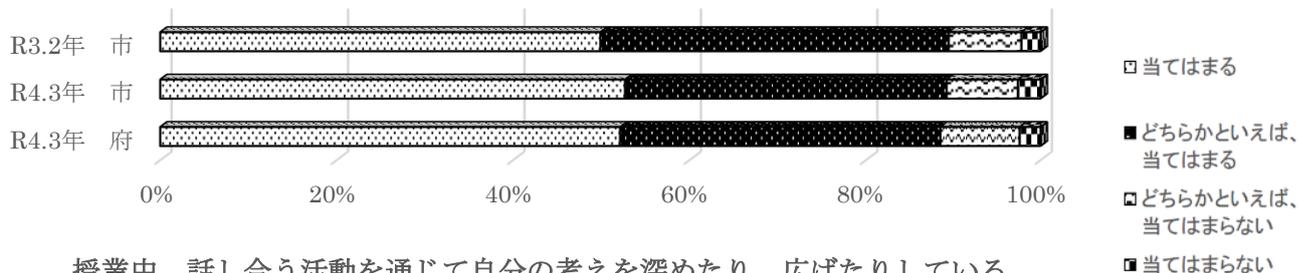
●設問5は、スピーチ原稿において、与えられた情報に基づいて、指示された語数の英語を入れ、英文を完成させる設問である。5(4)は、全設問中、正答率が最も低く、無解答率が最も高い(正答率:【市】10.8%【府】13.5% / 無解答率:【市】47.9%【府】42.3%)。場面や状況に応じた正しい表現を使用できるように、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を中心にした活動が求められる。また、言語活動を繰り返し行い、既習表現の定着を図る必要がある。

●設問9は、日常的な話題について、まとまりのある会話文の内容を理解する設問である。9(4)の内容を要約した表にあてはまる語句を選択する問題は、正答率が低い(【市】27.4%【府】34.6%)。必要な情報を読み取る・概要を読み取る・重要な内容を読み取る等、目的を明確にした『読む』活動を行う必要がある。

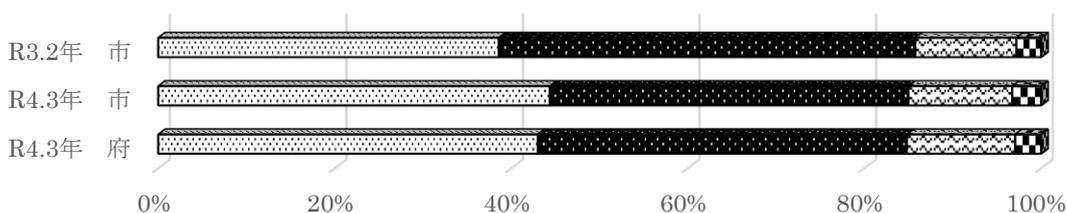
アンケート結果

■中学校3年生（同一集団の2年時からの変化）

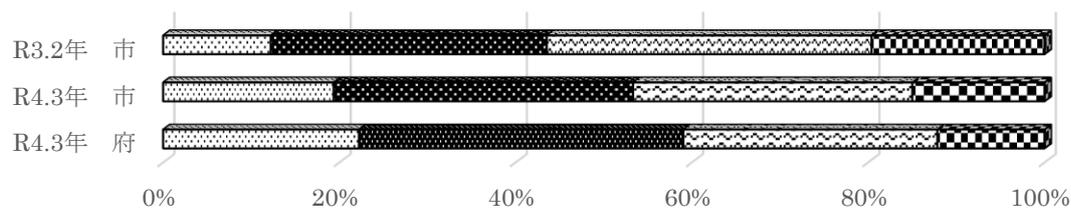
授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



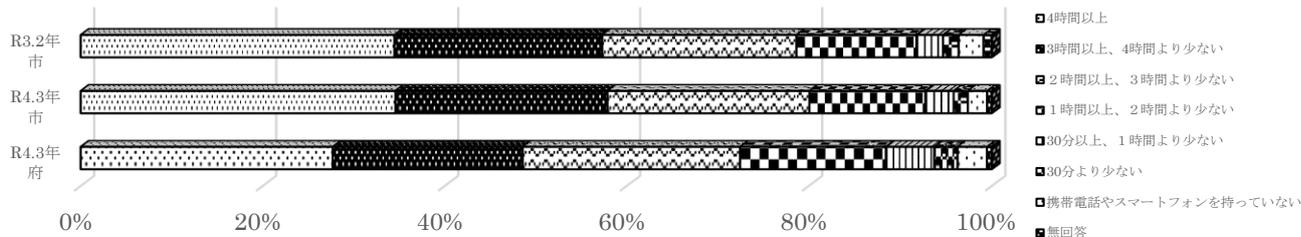
授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



自ら課題を見つけて、家で勉強している。



普段（月曜日から金曜日）一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



■特徴的な傾向と対策

- 「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」について令和3年度の結果と比べると、それぞれの強い肯定的回答の割合が増加している。子どもたちが主体となって授業に取り組むことのできる授業改善が進んでいることがうかがえる。
- 「自ら課題を見つけて、家で勉強している。」について、令和3年度より強い肯定的回答の割合が増加している。引き続き学校では、子どもたちへ自主学習の意義や取組み方等を伝え、併せて家庭での学習習慣の重要性を保護者、地域に伝えていくことが重要である。
- 「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか」については、3時間以上使用している割合が大阪府の割合を大きく越えており、ネット依存による生活習慣の乱れや集中力の低下などが懸念される。使用時間も含めて、活用の在り方について考える機会をもつ等、子どもたちが自律的に目的を持って活用できるよう、保護者と協力していくことが重要である。